令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 431-01-01

事務事業名		ふれあい広場関連事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		次世代育成課		連絡先		内線4450	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	子ども・若者育成支援		款	10	教育費
	施策の方向	1	健やかな成長支援		項	5	社会教育費
					目	2	青少年育成費
事業の概要	対象(誰を・何を)	青少年					
	目的(どうしたいか)	駒ヶ谷の豊かな自然を享受できる環境で、野外活動を行える場所を提供することで青少年の体験活動の充実を図る。					
	手段(事業内容)	グレープヒルススポーツ公園野外活動広場(ふれあい広場)の運営及び親子ふれあいサマーイベントの開催。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 行政協力者謝礼 2万円 消耗品費 4万1千円 原材料費 2万1千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	1,592	237	237		
決算額	事業費	1,056	83	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標 (事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)				
指標名	ふれあい広場の開設日数	単位	日	
指標の説明	1年間に施設利用に供した日数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	360	360	360	
実績	0	360	-	

成果指標 (事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)				
指標名	利用人数	単位	人	
指標の説明	1年間のふれあい広場の利用人数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	2,500	2,500	2,500	
実績	0	2,381	-	

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当でない。		C
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	見直す必要がある。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きくない。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		C
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合が可能である。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献度が低い。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。		B
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
グレープヒルススポーツ公園野外活動広場(ふれあい広場)の運営は指定管理者、親子ふれあいサマーイベントの事業は市で行っている。今後は事業についても指定管理者の自主事業の一環として事業を行えば、民間事業者ならではのノウハウや事業者同士の連携などを十分発揮できれば、目標の実現に大きく近づくと思われる。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
事業の対象者は青少年となっているが、ふれあい広場の使用は青少年に限定するものではないため、今後は対象を青少年にこだわらず、全年齢層を対象を変更し、より多くの年代の方々にふれあえる機会を与えるようにする。また多くの年代の方々にふれあい広場を周知できるように、全年齢層対象にしたイベントを実施できるように検討していく。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 431-02-03

事務事業名		白鳥児童館運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		次世代育成課 白鳥児童館		連絡先		072-957-4900	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	子ども・若者育成支援		款	10	教育費
	施策の方向	1	健やかな成長支援		項	5	社会教育費
					目	3	少年健全育成事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	乳幼児から小学校に在学する児童、保護者					
	目的 (どうしたいか)	子どもに健全な遊びを与えるとともに、地域における子育て支援を行い、子どもを心身ともに健やかに育成することを目的とする。					
	手段 (事業内容)	子育て親子の交流の場の提供、交流の促進、子育て相談等の子育て支援事業。主に小学生を対象にした遊びの場の提供、遊びの指導、工作や体験型教室の開催。地域との連携・交流を深めるイベントの実施。留守家庭児童会白鳥教室の施設提供。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	649	544	652	報酬	90,798円
決算額	事業費	572	512	-	旅費	1,420円
	特定財源等	0	0	-	需用費	365,575円
					役務費	54,173円

活動指標 (事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名	施設の開設日数	単位	日
指標の説明	1年間に開館した日数		
		令和3年度	令和4年度
目標(見込)	249	293	293
実績	249	293	-

【事業費】	
報酬	90,798円
旅費	1,420円
需用費	365,575円
役務費	54,173円

≪事業の参考数値等≫

--	--

成果指標 (事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名	施設の利用人数	単位	人
指標の説明	1年間に施設を利用した人数		
		令和3年度	令和4年度
目標(見込)	7,000	7,000	7,000
実績	5,230	6,783	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待通りの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>児童の利用は校区内である白鳥小学校の児童に限られるため、以前より市内全域からの利用者を増やすことを目標として、就学前の親子の利用の充実に努めてきた。その結果、平成29年度から子ども・子育て支援交付金を受けて、月曜から金曜日の午前中の事業を地域子育て支援拠点事業として、利用対象者を乳幼児の親子にまで拡大して実施した。令和元年度から新型コロナウイルスの影響で年間利用者数は減少しているものの、現在も市内全域から利用される事業である。</p>	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>今後も地域の子どもの健全育成と子育て支援及び居場所づくりとして継続していくとともに、高学年の児童の利用数を増やすことが課題である。児童館の規模が小さく施設面でも難しい面もあるが、興味のある遊び等を提供できるよう、事業の充実に努めていきたい。</p>

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 431-02-04

事務事業名		白鳥児童館施設管理事務事業			事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		次世代育成課 白鳥児童館			連絡先		072-957-4900	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち		予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	子ども・若者育成支援			款	10	教育費
	施策の方向	1		健やかな成長支援		項	5	社会教育費
						目	3	少年健全育成事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	白鳥児童館						
	目的 (どうしたいか)	利用者が安全に、快適に施設を利用できる。						
	手段 (事業内容)	施設及び設備の保守・点検、及び清掃、植栽等の環境整備。						

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	1,460	1,369	961
決算額	事業費	1,440	1,038	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和4年度決算)》

【事業費】	
需用費	762,440円
役務費	132,000円
委託費	143,000円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	職員による施設清掃の実施	単位	日	
指標の説明	開館日は毎日清掃している			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		249	293	293
実績		249	293	-

《事業の参考数値等》

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	臨時閉館日数	単位	日	
指標の説明	メンテナンス作業等を除き、施設の不備により休館となった日数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		44	0	0
実績		44	0	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		B
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
白鳥児童館を運営していく上で、施設管理の業務は不可欠である。また、小規模な施設であることから、館内清掃等は平成28年度から職員が直接行っており、コスト削減に努めている。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
今後は、経年劣化による修繕が必要な個所について、順次手当てしていきたい。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 431-03-04

事務事業名		20歳のつどい開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		次世代育成課		連絡先		内線4450	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	子ども・若者育成支援		款	10	教育費
	施策の方向	1	健やかな成長支援		項	5	社会教育費
					目	2	青少年育成費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	法改正により令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられたが、大学受験や就職など進路を決める時期と重なるため、これまでどおり20歳の方を対象とする。					
	目的 (どうしたいか)	社会人としての責任や自覚を促すとともに、これからの人生を自らの力と自主的な判断で歩んでいこうとする方々を祝福するために開催する。					
	手段 (事業内容)	例年実施していた成人式の運営方式を引継ぎ、成人を祝う式典ではなく20歳を祝福するための事業として実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	-	2,788	3,111
決算額	事業費	-	2,630	-
	特定財源等	-	0	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】	
20歳のつどい開催業務委託料	2,549千円
役員費	3千円
需用費	58千円
報償費	20千円
【特定財源】	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	20歳のつどい案内状の送付数	単位	枚	
指標の説明	20歳のつどいの案内状を送付した件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		-	1,200	1,200
実績		-	1,181	-

≪事業の参考数値等≫

【過去の出席率】	
H28	69.4%
H29	69.2%
H30	69.4%
R1	70.5%
R2	63.2%
R3	64.7%
R4	72.8%
※R3までは成人式として実施	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	20歳のつどい出席者数	単位	人	
指標の説明	20歳のつどいに出席した20歳の方の人数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		-	840	850
実績		-	860	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
令和4年度から20歳のつどいとして実施したが、出席率は以前の成人式の時と比べ大きく減少はしていない。当日は事故も無く、フォトスポットの設置などは参加者から好評であり、当日は多くの参加者が列を作っていた。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
今後も、参加者が旧友や恩師と交流できる場を提供していき、記憶に残るような場となるように内容を充実させていくために、創意工夫をして運営していく。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 431-04-04

事務事業名		各種教室等開催(青少年センター)事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		次世代育成課 青少年センター		連絡先		内線5561	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	子ども・若者育成支援		款	10	教育費
	施策の方向	1	健やかな成長支援		項	5	社会教育費
					目	6	青少年センター運営費
事業の概要	対象(誰を・何を)	青少年					
	目的(どうしたいか)	学校教育だけでは学ぶことが難しい伝統文化や実技を学び、体験できる場を提供し、伝統文化や実技への関心や興味、学ぶ楽しさを育む。					
	手段(事業内容)	定期教室(子どもアート、将棋、書道、水彩画、琴)、夏休み・春休みの短期教室の開催。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度		
当初予算額	事業費	1,468	1,476	1,941	【事業費】 講師謝礼 893千円 警備委託料 178千円	
決算額	事業費	1,112	1,302	-	【特定財源】	
	特定財源等	137	194	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	各種教室開催回数	単位	回	
指標の説明	各種教室の開催延べ回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		125	125	131
実績		102	123	-

【事業費】	
講師謝礼	893千円
警備委託料	178千円
【特定財源】	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	各種教室の参加人数	単位	人	
指標の説明	各種教室の参加延べ人数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		1,485	1,485	2,076
実績		1,061	950	-

≪事業の参考数値等≫

【算出方法】	
定期教室・短期教室定員数×回数	

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
・受益者負担(受講料)については、かなり安価に設定されているが、教室の意義が受講者の技術向上だけに留るのではなく、市の施策である文化芸術の推進に寄与していることを考慮すれば妥当と考える。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
・教室内容が定例化しているため、新たな内容の教室も検討する必要がある。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 432-01-01

事務事業名	発達に障害のある児童の居場所づくり事業			事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線4540	
担当部署名	次世代育成課			予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち		款	10	教育費
	施策	3	子ども・若者育成支援		項	5	社会教育費
	施策の方向	2	困難を有する子ども・若者の支援		目	11	課外対策費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	支援が必要な児童及びその保護者、羽曳野市留守家庭児童会職員					
	目的 (どうしたいか)	支援が必要な児童やその保護者が、悩みを抱えてしまうことで孤立や虐待につながらないよう支援を行う。留守家庭児童会職員が、支援の必要な児童への関わり方を学ぶことができるようにする。					
	手段 (事業内容)	相談窓口の開設。児童センター研徳田のホール開放による居場所づくり。留守家庭児童会職員向けの研修会の実施。保護者が社会性を育む子育ての仕方を学ぶ研修会、講演会。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 ・委託料 5,000千円	
当初予算額	事業費	5,000	5,000	5,000	【特定財源】 ・府補助金 5,000千円	
決算額	事業費	5,000	5,000	-		
	特定財源等	5,000	5,000	-		

活動指標 (事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名	支援が必要な児童の居場所づくり	単位	回
指標の説明	児童が様々な遊びができるようにホールを開放している。保護者の相談も行うことができる。		
		令和3年度	令和4年度
目標(見込)	6	6	6
実績	2	5	-

≪事業の参考数値等≫	
【事業費】 ・委託料 5,000千円	
【特定財源】 ・府補助金 5,000千円	

成果指標 (事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名	支援が必要な児童の保護者への相談支援	単位	人
指標の説明	児童センター研徳田にて開設している相談窓口、学童保育、ホール開放において相談支援を行った保護者の延べ人数。		
		令和3年度	令和4年度
目標(見込)	700	700	700
実績	845	640	-

≪事業の参考数値等≫	
------------	--

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市が運営する児童館では、障がいについての専門知識を有するスタッフを確保していないため、支援が必要な児童が遊んだり、保護者が気軽に相談できる窓口が開かれていない。そのため委託先である四天王寺悲田院児童センター研徳田では、支援が必要な児童の居場所や保護者が気軽に相談できる場所として、市民が利用できる環境を整えている。また、相談支援や研修等もっており、留守家庭児童会職員も参加している。実践方法を学ぶことで、いじめや虐待発生の再発防止策に役立っている。支援が必要な児童や保護者を支える場所があることは非常に重要であり、今後も継続していく必要がある。	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
専門知識を有するスタッフが留守家庭児童会へ赴き、支援が必要な児童への対応方法等を、実地研修により直接羽曳野市留守家庭児童会職員へアドバイスするなど成果向上に努めていきたい。	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 433-02-03

事務事業名		留守家庭児童会運営支援事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		次世代育成課		連絡先		内線4510	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	子ども・若者育成支援		款	10	教育費
	施策の方向	3	困難を有する子ども・若者の支援		項	5	社会教育費
					目	11	課外対策費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	留守家庭児童会職員(会計年度任用職員)・市内13小学校及び1義務教育学校の留守家庭児童会入会児童					
	目的 (どうしたいか)	児童会職員求めに応じた助言、援助を通して教室運営の支援					
	手段 (事業内容)	各留守家庭児童会の教室にて、次世代育成課職員が中心となり、有償ボランティアの退職教員スタッフ(3名)と、基本的には退職教員は毎週、次世代育成課職員は月2回児童会への訪問を実施。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和4年度決算)》	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 報償費(行政協力者謝礼)	
当初予算額	事業費	-	795	398	【特定財源】	
決算額	事業費	-	323	-		
	特定財源等	-	0	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	運営支援実施場所	単位	クラス	
指標の説明	運営支援を実施したクラス数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		-	30	30
実績		-	30	-

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	運営支援実施回数	単位	回	
指標の説明	留守家庭児童会運営支援を実施した回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		-	240	240
実績		-	240	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	
		B	
		B	
		A	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
留守家庭児童会の各教室において、児童会職員や児童会に対し、事務局職員、退職教員が教室運営の助言・援助を行うことにより、児童や児童会職員にとってよりよい教室運営の環境づくりに貢献していると考えます。また、児童会の現状や実態を事務局が把握し、その児童会の保護者や児童についても理解しやすい状況であること等から現状維持が妥当である。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
令和5年度から有償ボランティアの退職教員が1名減り2名となるため課職員で補っていく必要がある。課の通常業務に支障がないように運営支援を引き続き実施していく。